

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

1.	人文学部・人文社会科学研究科	研究 1-1
2.	教育学部・教育学研究科	研究 2-1
3.	理学部・理学研究科	研究 3-1
4.	医学部・医学系研究科	研究 4-1
5.	農学部・農学研究科	研究 5-1
6.	黒潮圏海洋科学研究科	研究 6-1
7.	海洋コア総合研究センター	研究 7-1

人文学部・人文社会科学研究科

- I 研究水準 研究 1-2
- II 質の向上度 研究 1-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、過去4年間の教員一名当たりの著書・論文件数は、年平均0.72件であり、学術論文に占めるレフェリー有りの比率は39.2%である。研究資金の獲得状況については、平成19年度の外部資金獲得総額の97.7%を占める科学研究費補助金の採択数（採択金額）は17件（3,020万円）、採択率は21.0%であることから、相応の成果である。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、人文・社会系から複合領域までの広い範囲で継続的な基礎研究の成果があらわれており、複合学部の特徴が出ている。優れた研究として、例えば、ドイツ文学からは『青島（チンタオ）から来た兵士たち』の刊行、言語学から『言語相互行為の理論のために』の刊行、経済学からは『マレーシアにおける農業開発とアグリビジネス』の刊行、及び区間効率値の改善に関する情報学的研究など、学界の高い評価を受けている。また、日米両国で特許審査中の「触文字」の開発も、学界の発展に寄与する優れた研究成果といえる。社会、経済、文化面では、情報図書館学から地域文化に貢献した西谷文庫目録の作成、及び経済学から高知県の経済政策に一定の役割を果たしたボランティア・NPOに関する調査研究など、優れた研究業績を生み出している。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、人文学部・人文社会科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、人文学部・人文社会科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

教育学部・教育学研究科

I	研究水準	研究 2-2
II	質の向上度	研究 2-3

1 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 16 年度から平成 19 年度にかけて、組織全体の活動件数として、著書が 28 件から 40 件へ、学術論文数が 53 件から 90 件へと増加しており、これらに総説や報告書等も加えた、教員一名当たりの業績数は、1.6 件から 2.5 件に向上している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金は平成 16 年度約 1,120 万円から平成 19 年度には約 4,116 万円へと増加し、共同研究や受託研究、奨学寄付金といったその他の外部資金も合わせた総額が、平成 16 年度約 1,680 万円から平成 19 年度約 4,635 万円に増加しているなどの相応な成果がある。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、教育学部・教育学研究科において、教育・心理、特別支援教育をはじめ、人文・社会、自然さらに保健・体育、芸術の各分野で相応の優れた成果を上げている。学術面では芸術教育分野での卓越した研究成果「ヨハネス・イッテンの芸術教育における人間を中心とする考え方について－『イッテン日記』の内容分析とエヴァ・プラウトとの談話をふまえて－」をはじめ、数学教育や教育学研究分野等で優れた研究成果が提出されている。また社会、経済、文化面では、音楽、工芸分野等で「m i t e ! 対話する美術鑑賞教育の開発」、「Association between Morningness-Eveningness preference and mental/physical symptoms in Japanese females」の成果が提出されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、教育学部・教育学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、教育学部・教育学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

理学部・理学研究科

I	研究水準	研究 3-2
II	質の向上度	研究 3-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの平均論文数が2.35件に上っており、そのうち査読によるものが84%を占めている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数（採択金額）が年平均26件（約4,500万円）で、採択率が過去4年間を通して28.9%となっている。その他の競争的外部資金の受入状況は、平成16年度以降、受託研究が15件、共同研究が51件となっているなど、比較的活発な研究活動が展開されていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、理学部・理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理学部・理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、国際的課題である「資源」について積極的に取り組んでいる。社会、経済、文化面では、特に、絶対温度1K以下の温度を容易に実現することに成功した発明は波及効果大きい。また、月探査機「かぐや」のハイビジョン撮影の運用支援ソフトの開発は、プロジェクトに大きく貢献し、Laureate Award for Spaceを受賞している。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、理学部・理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理学部・理学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

医学部・医学系研究科

I	研究水準	研究 4-2
II	質の向上度	研究 4-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、研究組織に特徴をもたせる取組、若手研究推進策のほか発信学術論文の英文率の数値等から、相応の水準にあると判断した。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度において、文部科学省科学研究費補助金 1 億 2,500 万円、厚生労働省科学研究費補助金 6,537 万円であり、外部資金取得総額は、7 億 5,261 万円となるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、実験病理学、循環器内科学、血液内科学、小児科学などで優れた業績が認められる。社会、経済、文化面では、例えば、「簡易型の他動的自動運動誘発機器の開発一膝を痛めずに糖代謝効果を簡単に誘発する方法」が卓越した評価を受け、その他、枇杷種子由来エキスの研究と実用に積極的に取り組んでいるなどの相応の成果である。

以上の点について、医学部・医学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、医学部・医学系研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

農学部・農学研究科

I	研究水準	研究 5-2
II	質の向上度	研究 5-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成19年度の教員一名当たりの平均論文数は、1.6件であり、平成16年度から平成19年度までの4年間に、論文450件で、ほぼ毎年100件である。英文の論文が大部分である点も、研究の国際性の観点からも評価でき、国際学会発表でも4年間に123件ある。また、知的財産権の出願も行われている。研究資金の獲得状況については、平成19年度の科学研究費補助金採択数（採択金額）は、29件（6,351万円）であり、順調に獲得されている。フィールドサイエンスという研究成果を上げるには時間を要する領域で、地域の状況を踏まえて、農学系の特色を出した研究活動が行われ、一定の成果を上げていることなどは、相応な成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、卓越した研究業績は見られないものの、地域の状況を踏まえて、農学系の特色を出した研究活動が行われており、一定の成果を上げている。学術面では、サケのソマトラクチン受容体の同定など、注目してよい成果が上げられており、社会、経済、文化的意義の面でも、早期栽培用稲品種、柑橘類の研究などで、よい成果が上げられている。また、学会賞の受賞状況を見ると、日本水産学会奨励賞、ビタミン学会賞、生物工学奨励賞、日本農芸化学会論文賞、J. General Plant Pathology 論文賞、日本食品保蔵学会論文賞、文理シナジー学会学術奨励賞、日本オゾン協会論文奨励賞等を受賞しており、良好である。米の品種登録なども行われ、ユズやウドの利用にも成果が見られる。国際的な共同研究として、ベトナムのエビ養殖場の抗生物質汚染の研究、東南アジアのヒ素汚染の研究等があり、努力が認められることなどは、相応な成果である。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結

果、研究成果の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

黒潮圏海洋科学研究科

I	研究水準	研究 6-2
II	質の向上度	研究 6-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成16年度以降、教員一名当たり年平均2件を超える原著論文、約1件の著書が公刊されている。研究資金の獲得状況については、教員一名当たりおおよそ100万円を超える科学研究費補助金を含め、外部資金全体について、最も少ない年度でも160万円を超えるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学際度」については、「異分野連携研究推進」「文理統合研究体制構築」「文理融合研究体制構築」という段階を踏んだ計画に基づき、学際的分野としての「黒潮圏科学」の創生を目指した活動を進めており、論文や科学研究費補助金を指標として一定の活動実績を上げつつあることは認められるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「国際度」については、黒潮圏域における持続的社會構築を目指した研究を行うことを目的に、フィリピン、台湾をはじめとするアジア地域における海外調査や国際プロジェクトが活発に実施され、一定数の外国人研究者の受入れ実績も認められるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、卓越した業績はみられなかったものの、新規の学際的分野創生を目指し研究活動から一定の成果（論文・著書）が公表されており、さらに学際的分野における成果を充実することを目的に、業績発表機会の確保を目指した新たな学術研究雑誌『黒潮圏科学』を創設している。社会、経済、文化面では、卓越した業績はみられなかったものの、一般読者を対象とした書物を刊行するなどの相応な成果が

あることから、期待される水準にあると判断される。

「学際度」については、学際性を意識した活動が行われていることは認められ、相応の努力が行われているが、個々の論文で既存学問体系を脱却し切れておらず、著書においてははまだ十分には焦点が絞り切れていないという評価を受けている。しかし、著書については、書評では一定の評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「国際度」については、台湾、フィリピンとの共同プロジェクトを実施し、三国合同のワークショップを開催、さらにその成果を基に台湾で国際シンポジウムが計画されている。さらにそのような実績を基礎に、マレーシア、バングラデシュとの連携に発展させる取組も進行しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、黒潮圏海洋科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、黒潮圏海洋科学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

海洋コア総合研究センター

I	研究水準	研究 7-2
II	質の向上度	研究 7-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成16年度からの学術論文数は計100件あり、民間等との共同研究・受託研究は計10件である。研究費の獲得状況について、科学研究費補助金、特別教育研究経費等の競争的資金は計22件1億4,000万円に達することなどは、相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、国際シンポジウム・特定分野の研究集会・ワークショップを定期的に行うなど、国内外の地球掘削科学の拠点としての機能強化に努めていることなどは、相応な成果であることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、海洋コア総合研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、海洋コア総合研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、地球掘削科学や関連する基礎科学分野の研究で相応の成果を収めており、古地磁気学の分野においても学会若手研究賞を受けることなどは、優れた成果を収めている。社会、経済、文化面では、特許を取得するなど成果の向上がみられる。これらの状況などは、相応な成果である。

以上の点について、海洋コア総合研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、海洋コア総合研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。

